

# 平成28年第4回理事会議事録

- 日 時：平成28年11月25日（金） 11：30～17：00
- 会 場：大阪大学微生物病研究所・第一会議室（本館二階）
- 出席者：堀口安彦 理事長、  
大西 真、川端重忠、川原一芳、桑野剛一、古西清司、関水和久、高井伸二、中川一路、  
西川禎一、林 哲也、松下 治、八木淳二、山口博之 各理事  
大原直也、三宅眞実 両監事  
赤池孝章 第90回総会長、中根明夫 学会賞選考委員長
- 欠席者：白井睦訓、辻 孝雄 各理事  
光山正雄 名誉会員選考委員長

※ 五十音順 敬称略

## I. 開会（理事長挨拶）

堀口理事長より以下の挨拶があった。これまで理事会とは別に、統一を図りコンセンサスを得るために懇談会を開催していたが、2年を経過し方向性や懸案事項などに関する意識や理解も深まってきたということで、今回から懇談会は行わないこととする。

## II. 確認事項

前回理事会（平成28年第3回理事会）の議事録について、修正の要請はなく、確定した。

## III. 総会報告

### 1) 第89回総会終了報告（堀口第89回総会長）：

堀口理事長より、資料に基づき、以下の報告があった。参加者が1,064名と、1,000名を越え思いのほか参加費収入があった。展示会出展料や共催費は、従来通りだが、今年度から、新たに広告費としてスクリーン広告費（セッションがない時のスクリーンの活用）とホームページ広告費（バナー広告費）を設け、75.6万円の収入が得られた。また寄付金（日本製薬団体連合寄付、企業寄付、東京生化学研究会、中央競馬会）は、総額540万円となった。

### 2) 第90回総会準備状況報告（赤池第90回総会長）：

赤池第90回総会長より、資料に基づき、以下の開催概要に関する報告があった。会期（学術総会）は、2017年3月19日（日）から21日（火）までの3日間。会場は、仙台国際センター展示場。会場は、東西線が開通し、仙台駅からのアクセスが良い。テーマは、「生命科学と細菌学の学術基盤と先端融合」。3月18日の11:30-16:00、理事会を東北大学片平キャンパス片平さくらホールで行う。その後、16:00-18:00に同会場にて評議員会を開催する。特別講演と教育講演は5演題を予定している（海外からの招聘講演を含む：Jon O. Lundberg スウェーデン・カロリンスカ研究所、Hasan Zaki テキサス大学サウスウエスタンメディカルセンター、Elias Arnér スウェーデン・カロリンスカ研究所、

前田 浩 崇城大学・熊本大学名誉教授・日本細菌学会名誉会員、山本雅之 東北大学\*敬称略）。シンポジウムは、シンポジウム企画調整委員会にて企画された24セッションと公募7セッション、計31セッション。ワークショップは、全て一般演題から選抜とし、9セッションとした。また選抜ワークショップ以外は区別をなくし、全てシンポジウムとした。選抜ワークショップのテーマは、査読体制も加味し、一般演題カテゴリーより絞り込んだ（生態、病原因子と病態、免疫・生態防御）。これらにエントリーした一般演題よりワークショップ演題を決定する。ICD講習会は例年通り実施することとし、菊池教授（東京女子医科大学）がオーガナイズする予定。日薬連には、昨年同様に寄付の依頼を行った。中川理事より、総会アプリは大変好評だったことや、予算削減にもなるのでiPhoneなどで利用できる永続的なアプリを作ったらどうか（総会ごとに作るのではなく）、との提案があり、実現性（費用）も含め、検討することになった。託児室を設ける。

### 3) 第91回総会準備状況報告（林 第91回総会長）：

林第91回総会長より、資料に基づき、以下の開催案について説明があった。会期（学術総会）は、2018年3月27日（火）から29日（木）までの3日間。会場は、福岡国際会議場。3月26日（月）の理事会と評議員会は、九州大学病院地区（基礎研究B棟講義室を利用）で開催する。学術集会は、例年通り。ポスター（3日間）は貼りっぱなしにしたいが、ボードの関係でできない可能性がある。ICD講習会（赤池第90回総会長：総会長が企画

を出す、講師の旅費・会場費などの費用はICD側が負担することになっている)は、3月29日(木)の午後開催する予定(内容についてはまだ確定に至っていない)。参加者を拡散させたくない、4会場程度に抑えたい。事務室・会議室スペースは十分に確保した。また託児室も設ける予定。懇親会は行わない。ミキサーは行う予定。学術総会運営委託業者は、現在見積もりを取り選定中。日韓シンポをどのようにしたら良いのか、意見を聞きたい(審議事項として審議)。

## IV. 報告事項

### 1) 総務部会報告

- ① **総務・渉外担当報告** (川端理事) : 川端理事より、資料に基づき、以下の説明があった。会員数は、平成28年10月31日現在、トータルで2,415名(1年前に比べると39名の減\*正会員のみでは58名の減)。総会時の会員総数は、2,443名と、前年度に比べ38名の減。会員数の減少には歯止めがかかっていない。「環境微生物系学会合同大会2017」(仙台)の後援依頼があった。費用負担もなかったため、執行部にて了承する旨を回答した。Conbio2017(日本生化学会と日本分子生物学会の合同学会)の協賛依頼について、執行部から了承する旨を回答した。それに伴い、日本細菌学会からシンポジウム1つを企画することになり、感染研の小川先生と九州大学の小椋先生に依頼した。選挙細則の改訂について、先般ホームページやメール等で案内しているように、選挙細則改定案への意見聴取を行っている。締め切りは11月25日。
- ② **広報・HP作成担当報告** (中川理事) : 中川理事より以下の報告があった。英語版のホームページはまだ完成していないが、次回までには報告できるようにしたい。昨年度の総会アプリは大変好評であったので、iPhoneなどで利用できる永続的アプリ(学術総会ごとに作らなくて済む)を作りたいとの希望が、会員から寄せられている。費用負担がどの程度になるか試算することにする。昨年度の学会アプリは、約100万円(限定的なアプリ)であり、フルアプリは約450万円かかると聞いている(堀口理事長)。
- ③ **選挙関連担当報告** (八木理事) : 八木理事より、資料に基づき、以下の説明があった。選挙の電子化ということで、委託業者候補として2社を選定し、審議を経て、教育ビジネスサポートに決まっていた(セキュリティーに難がなく、学会選挙電子化に関する実績が豊富なので)。費用を抑えるために関水理事が再度交渉した。学会事務局早瀬氏より、以下の補足説明があった。再交渉した結果、10.8万円安くなった。次回の選挙は電子選挙となる。

### 2) 財務部会報告

- ① **会費・会計担当報告** (関水理事) : 関水理事より、資料に基づき、以下の説明(H28.1.1-H28.10.31の執行状況)があった。収入の部では、第10回若手コロッセウムから寄付(223,258円\*協賛金が潤沢であり、運営補助費の一部を返還したもの)があった。雑収入の内訳は、細菌学教育用映像素材集(DVD第4版11枚、DVD動画第1版9枚、DVD動画第2版56枚)、病原体等安全取扱・管理指針(711冊\*九州大学が700冊)、微生物用語集2冊、著作権使用料、計1,373,198円。支出の部では、特段報告する内容は無いが、東北支部・中国四国支部に20万円支出した。現時点での単年度収支は、5,017,741円の黒字決算となっている。ただし、第90回総会の補助費300万円を送金していないことや、本日の理事会関連費、年末までの印刷費、通信費等はその支出に含まれておらず、現時点での推定収支額は100万円程度の黒字決算となる見込みである。堀口理事長より以下の追加発言があった。若手コロッセウムの幹事の努力が目に見えるように、返還額については、寄付金とは別立てで収支簿に記載し、緊急の事態があった際は、そこから支出できるようにする。
- ② **賛助会員担当報告** (西川理事) : 西川理事より、資料に基づき、以下の報告があった。新たに賛助会員になった企業は1社(江崎グリコ)。その一方、1年間で退会する企業が3社あった。平成28年11月24日の時点で、賛助会員数は計40社。応募当初に比べ賛助会員数は2倍になった。

### 3) 学術部会

① **学術支援・評価担当報告** (林理事) : 従来通り実施する。

#### ② 学術企画分野

1. **シンポジウム等企画担当報告** (西川理事) : 西川理事より、資料に基づき、以下の説明があった。昨年と同様のシンポ・ワークショップ数35企画を目標とし、企画調整委員回で審議し、37セッションを決定した。その内7つのセッションは、選抜ワークショップとした(一般演題から全ての演題を選抜する初めての試み)。またMix型(一部を一般演題から選抜)のセッションは調整が難しくなるので取りやめた。これまでの”若手の星”ではなく、若手コロッセウムの名前を入れたセッションを作るようになった(今後、細菌学会として援助しやすくなる)。一般演題ポスターの中には、面白そうなのにオーラルに上がっていない演題があることと、アンケートの結果、自分の研究成果をオーラルで発表したいといった若手の希望

が多かったことから、このような企画とした。選抜は企画委員で行うが、人員が限られていることから、全ての演題を網羅できない。よって一部の一本演題カテゴリー(生態、病原因子と病態、免疫・生態防御\*企画調整で細菌学会では主流だが抜けていたジャンル)から選抜することになった。堀口理事長より以下の追加発言があった。企画調整の開始時期や公募の前倒しに関しては、企画調整委員長・副委員長そして林第91回総会長で相談し決めてほしい。

2. **バイオセーフティー担当報告** (大西理事) : 大西理事より、資料に基づき、以下の説明があった。生ワクチン株 *Salmonella enterica* Typhi Ty21a 株が、厚生労働省の特定病原体から除外されたことから、バイオセーフティー分類について本委員会で検討した結果、BSL1 となった。ホームページの上の記載を修正する。
3. **ICD 制度協議会等担当報告** (桑野理事) : 桑野理事より以下の説明があった。平成 28 年度の ICD 申請者は 3 名であった。申請者の資格等について審査を行った結果、問題がないことを確認し、ICD 制度協議会に推薦を行った。

### ③ 学術交流分野

1. **日本微生物学連盟担当報告** (川原理事) : 川原理事より、資料に基づき、平成 28 年 9 月 16 日に開催された、日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS 分科会・病原体学分科会合同会議に関する報告が以下のようにあった。総合微生物科学分科会からは、農学分野における名古屋議定書関連検討分科会が中心となりまとめた「学術研究の円滑な推進を保証した名古屋議定書批准に向けての提言」に関して説明があった。生物多様性条約名古屋議定書については、大臣向け資料としては、表現が強く専門的な部分があるので修正することになった。IUMS 分科会からは、日本学術会議分科会の活動状況審査の結果、IUMS 分科会の継続が認められたことなど、事務的な報告があった。2017 年 7 月 17-21 日にシンガポールで開催される IUMS 国際会議のホームページがアップされ、次回の国際会議が韓国で開催されることが決まったと報告があった(IUMS 国際会議に向けた対応などに関しては、審議されなかった)。病原体分科会では、微生物学教育を初等、中等教育から増やしていくように各方面に働きかけ、議論を深めていくこととなった。日本微生物学連盟主催フォーラム(対象者: 高校生以上の一般向け)は、年 2 回の開催を目指している。今回は、微生物生態学会の木暮先生が「微生物: 変わり者たちの素顔」というタイトルで取りまとめる。2016 年度と 2017 年度にはまだ空きがあるので、各学会からフォーラムに積極的に企画(一般受けする、あまり難しいもの)を出して欲しいといった依頼があった。日本細菌学会からも何か企画を出してはどうか(例えば「細菌性の食中毒」)。日本微生物学連盟の構成学会について、相互理解を深めるために 5-6 学会ずつ、理事会で自己紹介(5 分程度、パワーポイント)をすることになった。堀口理事長から以下の発言があった。フォーラムに関して実施を希望する際は、川原理事に直接申し出て欲しい。
2. **日本学術会議担当報告** (川原理事) : 上記に含む。
3. **日本医学会連合担当報告** (辻理事) : 特になし。
4. **予防接種推進専門協議会担当報告** (大西理事) : 特になし。

## 4) 教育部会報告

- ① **次世代教育・人材育成担当報告** (松下理事) : 松下理事より、資料に基づき以下の説明があった。本委員会では、堀口理事長からの指示で、日本細菌学会の次世代教育・人材育成活動の見直しを行っている。現状では、千葉大学の野田先生に大きく依存したものになっているが、継続的かつ組織的に啓発活動に参加できる支援策について検討している。それに伴い、本委員会では初等・中等教育における細菌学の啓発活動についてアンケート調査を実施した(まずは中国・四国支部の評議員に実施、32 名)。アンケート内容は、アウトバウンドの出張講義だけでなくインバウンドの高大連携事業やひらめき☆ときめきサイエンスなどの実施状況(2 年間程度の期間で)、そのようなプログラム実施の際、日本細菌学会の後援、ロゴの使用、実施した会員の評価または若干の活動費(大学では支援しにくい部分)の支援等の是非。その結果、一部の会員が教育に関する啓発活動を継続的に実施していることが分かった。細菌学会の支援に関しても賛同が得られた。アンケートの調査に意義がありそうなので、全国の会員を対象としてアンケートを実施することになった(実施方法は、各支部の評議員に各支部長から依頼する\*依頼文は早瀬氏が作成)。日本細菌学会の支援体制については、アンケート結果を踏まえ、委員会で方向性に関する案を作成し、理事会で審議することになった。若手コロッセウムの報告は次回の理事会で行う。

- ② **教育資源発掘・保存担当** (松下理事) : 特になし。

## 5) 出版部会報告

- ① **学会誌担当報告** (大西理事) : 特になし。
- ② **MI 誌担当報告** (川端理事) : 川端理事より、以下の報告があった。昨日ワイリーから 2017-2019(来年度

から3年間)の出版費用の締結に関する案内があった。最終的な締結内容案は12月中旬に出てくる予定。年間で110-120万円の軽減となる見込みである。締結内容案の精査については、川端理事に一任することになった。堀口理事長から、MI誌のインパクトファクターを上げるためにも、積極的に論文投稿して欲しいとの要請があった。

- ③ **用語集担当報告** (八木理事) : 八木理事より、以下の説明があった。前回の理事会での審議結果として、用語集のWeb公開が了承されたが、その後内容を見直したところ、菌名リストなどで幾つかの修正が見つかったので、審議事項として今後の方向性について再度検討する。

## 6) 国際交流部会報告

- ① **IUMS 等担当報告** (古西理事) : 古西理事から、資料に基づき、以下の説明があった。今年10月、細菌学会の全会員にIUMS2017(シンガポール: 17-21 July 2017)の会期と開催地、参加・演題登録等詳細に関するWebページについてメールマガジンにてアナウンスした。2回目のアナウンスは来年1月頃に行う予定。他学会(ウイルス学会)のIUMSへの対応について、学会事務局は早瀬氏に調査してもらった。その結果、ウイルス学会ではIUMS担当理事が設置されていないこともあって、IUMSへの学会としての対応に関する議論は行われていない。桑野理事より以下の追加発言があった。IUMS2017のプログラム委員の一人として、ワークショップセッション(Pathogens and Immunology)をオーガナイズはすることになっている(一般演題から選抜)。プログラム委員会では、若手を取り上げたいといった意向がある。エントリー希望者は申し出て欲しい。
- ② **日韓微生物等担当報告** (桑野理事) : 特になし。

## 7) 社会交流部会

- ① **利益相反担当報告** (辻理事) : 特になし。
- ② **倫理担当報告** (白井理事) : 特になし。

## 8) その他

## V. 審議事項

### 1) 新名誉会員の選考について:

中根名誉会員選考委員より、資料に基づき、以下の説明があった。メール会議にて、候補者の太田房雄氏と小熊恵二氏の二人について慎重に審議した結果、全会一致で新名誉会員に相応しいと判断されたので、本理事会に推薦する。審議の結果、選考委員会案は承認された。

### 2) 学会賞受賞者の選考について:

中根学会賞選考委員長より、資料に基づき、以下の説明があった。平成28年10月25日に東京駅八重洲倶楽部で選考会議を実施した。評価表などを踏まえ慎重に審議した結果、浅川賞(申請者は1名)には、中山浩次氏(長崎大学)「バクテロイデーテス門細菌のIX型分泌機構およびV型線毛の研究」、黒屋奨学賞(申請者は1名)には、住友倫子氏(大阪大学)「病原性レンサ球菌の上皮バリア突破機構の解明」が、満場一致で各賞に相応しいと判断されたので、本理事会に推薦する。審議の結果、選考委員会案は承認された。小林六造記念賞への申請者はいなかった。中根学会賞選考委員長より以下の追加発言があった。申請者が少ないことへの対応(応募期間やアナウンスの方法なども含め、応募者が増えるような取り組みや改善点)については、今後検討する必要がある。

### 3) 選挙管理委員会の設置について:

学会事務局早瀬氏より、資料に基づき、以下の説明があった。理事会は、理事改選の9ヶ月前までに選挙管理委員会を結成することになっている。また選挙管理委員会は理事5名より構成され、理事の互選より選出される。従来から現在の選挙担当理事(八木、関水、古西\*敬称略)3名に、2名を追加するというスタイルで委員会は構成されていた。堀口理事長から以下の追加説明があった。来年9月に選挙が予定されており、それに伴う設置である。審議の結果、追加2名は大西理事と川原理事に決まった。早瀬氏から以下の追加説明があった。次回から選挙は電子化されるので、開票集計は短時間で完了する予定である。選挙の段取り(委員が集まった方がよいのかも含め)については、選挙委託業社の実施内容を踏まえ、八木理事と相談し決めることとする。

4) **名誉会員選考細則の改訂について:**

堀口理事長から、資料に基づき、以下の説明があった。法人化検討ワーキンググループが定款などを精査していた際に気づいた軽微な細則変更である。審議の結果、承認された。

5) **法人化について:**

川端理事(法人化検討委員長)より、資料に基づき、以下の説明があった。

〈現状と今後のスケジュールについて〉

司法書士に作成してもらった定款案をたたき台に、修正意見を理事に出してもらおうよう依頼し、出された意見についてワーキンググループで、ある程度の方向を決めた上で修正し、再度司法書士に内容を確認してもらっている(修正版内容は今回の理事会には未提出)。出来上がり次第(version 2)、メールで回覧し、来年2/2開催予定の理事会に司法書士に参加してもらい、理事会としての疑問点をすべて払拭する予定である。来年2月あるいは3月の総会時の理事会で、法人化に向け検討を進めるかどうか決定する。また総会では、法人化について説明を行い、同意を得る予定である。その一方で、一般会員に対してはパブリックコメントを求める。その後、2018年3月に新役員のもと、法人化の是非を総会で決議する(新法人の設立登記は2019年1月頃を予定)。

〈法人化することのメリット・デメリット・相違点〉\*以下、三宅監事からの説明

デメリット: 税理士費用、司法書士費用、登記費用(2年ごとに選出される役員登記費用)として年間107万円前後(初年度はプラス30万円)の経費が新たに発生する。法人法に従った納税義務が発生する。

メリット: 社会的な信用度が上がる。法律行為(不動産取得など)ができるようになる。

相違点: 法人法に従わなくてはならない。役員任期が異なり、2年となる。再任可能だが最大6年まで。一般会員の議決権がなくなる(代議員制となる)。

これらの内容や意見を踏まえ審議した結果、一般会員に向け、法人化に向けて情報発信していくとともに、その発信内容についてはワーキンググループに一任することにする。また法人化に向けたスケジュールはロードマップに従い、行うことになった。

6) **用語集について:**

八木理事から、資料に基づき、以下の説明があった。菌名や専門用語等の学術規定を精査・改定・説明していくことは、細菌学会の重要な使命の一つである。用語集の前の改定は平成19年であり、10年近く改定されていない。そこで、江崎前用語委員会委員長に菌種レベルで5,000近くについて学名(BSL含む\*新種も含む)と和名を確認してもらい、用語委員会で修正し、前回の理事会で審議した結果、HPに電子版を掲載することについて了承された。ところが、再度詳しく調査した結果、修正箇所(明らかな間違いや和名の統一性が保てない箇所\*スペルが同じでも和名が異なる場合がある)が多数見つかった。今回、用語委員会としては、HPへの掲載に際しどこまで修正すべきなのか(HPに掲載する際の基準)、またどのレベルでいつHPに掲載するのか。修正ファイルを作成し理事会に諮ることになった。修正ファイルでは明らかな間違いは修正した。和名の統一は一部整えたが、全てについて統一性を保つ修正はできなかった(例えば、バチラスとバチルス、マイクロとミクロなど)。BSLについては大西理事が再度確認した。堀口理事長から以下の発言があった。カタカナの問題はどこまでいっても統一できない(かなり難しい)。審議の結果、カタカナについてはこれまでの通例慣用名を尊重し、但し書きをつけた上でHPに記載し(和名の統一性については問題点を残したままでも構わない)、その際“何月何日版”の表記を加えることも決まった(松下理事の提案)。

7) **PubMed 採択誌としての継続について:**

大西理事より、資料に基づき、以下の説明があった。NLBより、J-Stage公開の各PubMed採択誌に対して、バックナンバーの安定的な保存整備を整えるよう通告があった(実施しないとPubMedに引かからなくなる)。委員会で検討した結果、「Portico」(初年度250USD+47,000x1.08円、次年度以降は250USD/年)データアーカイブに登録する旨、理事会に提案することになった。審議の結果、委員会の提案が承認された。

8) **日本微生物生態学会との共催について:**

堀口理事長から以下の説明があった。日本微生物生態学会とは、3年前から各学会で合同(共催)セッションを設けてシンポジウムを実施している。その際、日本微生物生態学会で非会員の細菌学会会員が発表する時、旅費(交通費と宿泊費)ならびに参加費を支給してもらっている。一方、緊縮財政に伴い、日本細菌学会で微生物学会会員が発表する際には援助をしてこなかった。収支状況が改善し2年連続で黒字となっていることから、来年の学術総会から支援したい(支援費は総会長から別途本部に請求する)。審議の結果、了承された。

## 9) 2018年の日韓国際微生物学シンポジウムについて:

堀口理事長から以下の説明があった。桑野理事とともに韓国執行部と今後の日韓シンポのあり方について話し合った(申し出を行った)。その内容は、“細菌学会は財政的な問題で日本開催の際には特別なことではないが、継続したい”、“形式は変わるかもしれない”、“実際的なコミュニケーションができる会とすべきである”。今までと同じように、総会の前日に日韓シンポを実施する必要はなく、色々な形があって良い。総会の中に日韓のセッションが自然な形で組み込まれているのが良いのではないかと。林理事(第91回総会長)より以下の発言があった。会場は前日午後から予約をしているので、できないことはないが、日韓シンポを前日開催するのは難しい。3/27-29の中で行うしかない。形式内容については、企画調整委員会(新執行部の新たな企画委員から構成される)で調整するのが良いのではないかと。バンケット、レセプションはどうするのか(実施しなくても良いのではないかと)。桑野理事より以下の説明があった。従来4つのシンポから構成されている。旅費・参加費については受け入れ側が全てを負担した(14名程度、座長と演者)。枠組みそのものの変更(シンポの数を減らす)は、韓国側が戸惑うと思う。日本で開催する場合にはJSTからの助成は得られない。通例だと、バンケットとレセプション(ウエルカムパーティー)を行っている。歓迎していないと思われぬように配慮すべきである(堀口理事長)。審議の結果、日韓シンポは総会の中に溶け込むように入れ、その内容は、企画調整委員の中に日韓シンポ担当班(桑野理事を含む\*中心として)を加え、その班の中で調整(韓国側との交渉なども含む)することになった。レセプションやバンケットの実施(経費の捻出方法についても)の是非(総会長の意向として懇親会は行わない)、日韓シンポの総会長を設けるかどうかについても(会長の決め方は経緯を遡って調べる)、次回理事会までの宿題とすることになった。

## 10) 2017年の支部活動支援について:

堀口理事長より、資料に基づき、以下の説明があった。ドラスティックな提案はなかった。報告書からは優劣はつけられない。一方、支部総会にかかる費用は、支部によって大きく異なる(その費用を除くと20-35万円程度)。そこで支部支援金は、これまで各支部に送金した金額と平成27年度の決算額を基準に決めていきたい。支部会費を1,000円/人(東北支部は別)とすると総額230-240万円となる。全てを支部に分配すると、支部会費を廃止したメリットがなくなるので、支援額は100-110万円をマックスとしたい。審議の結果、各支部の支援費額は北海支部25万円、東北支部30万円、中部支部30万円、中国四国30万円、九州支部5万円に決まった(合計120万円)。なお、関東および関西支部からは支援要請がなかった。またこれら支援額について、各支部長宛に通知することも決まった。堀口理事長から以下の追加発言があった。関西支部では、将来収入(支援費)がゼロになることを想定し、支部運営を行っている。支部ではそれぞれそれぞれの会則に沿って選挙や総会を行っていることがコスト高になっている要因の一つと思われる。支援費が確保できない場合も想定し、工夫しながら支部運営を実施して欲しい。また今後、支部でミニ細菌学会総会のような学術総会は止めること(コストがかかる学術集会を行うのなら、若コロのように寄付金を集める等それなりに工夫が必要)。支援費は決して永続的なものではない。

<支部収支決算など説明(支援依頼のあった支部のみ)>

**北海道支部:** ここ数年、会員数を維持している唯一の支部である。支出が学術総会費と若手支援費が主たるもので、運営が簡素(儉約)に維持されている。支部総会費は169,963円(第82回)。本部からの支給額は76,000円(山口理事の発言を含む)。

**東北支部:** 北海道支部に次ぐ会員数が少ない支部である。会員数はここ数年減少傾向であり(正会員と学生会員数ともに減少)、会員の掘り起こしを行っている。会員数の減少については、東北6大学の教育・研究に関わる教員数の減少が関係していると考えられる。支部会は細菌のみならず、免疫、ウイルスもすべて包括したものとなっている。支部会には、会員数は120名と少ないが、多くの参加者がいる。紙媒体での支部会誌「東北のコロニー」のために経費がかかっている(HPを開設し電子化を検討中)。支部総会費は、約100万円(第69回\*運営諸経費は約48万円とかなりかかっている)。本部からの支援費は288,000円(高井理事の発言内容を含む)。

**中部支部:** 支部総会費は、673,013円(2015年開催\*事務費が約30万円)。本部からの支給額は263,000円。

**中国四国支部:** 支部総会費は、926,000円(第68回)、1,980,000円(第69回\*大学の事情で会場が‘かがわ国際会議場’になったことで費用がかさんだ)。細菌学教育費は、DVD作成時に支部費として支給してもらった残金288,856円を細菌学会に間接的に戻した額。本部からの支援費は309,000円(松下理事と大原監事の発言を含む)。

**九州支部:** 支部総会費は、944,000円(第69回)。一般演題から優秀な演題を選抜(若手奨励費:10万円)。繰越金は3-5年に一回の特別企画を開催するための予算として確保。本部からの支援費は186,000円(桑野理事と林理事の発言を含む)。

11) **日本細菌学会と口腔保健協会の平成 29 年事務委託契約について:**

学会事務局早瀬氏から、資料に基づき、以下の説明があった。委託費用 3,552,000 円(年間)は、総会の会員数(2,482 名)に基づき算出した。契約内容に関する変更はない。審議の結果、了承された。

12) **その他**

**HP について:**

クレジットの支払いに関しては、年明け 1 月から実施できるようになっている(早瀬氏)。堀口理事長から以下の発言があった。会員の区分(案)は、学生会員(総会参加すれば次年度の総会も参加できる)、海外会員(MI 閲覧可能にする\*MI 講読料金 7,000 円/年)とする。次回(または次々回)の理事会で決定する。また今後、財政が許すなら、年会費を 2-3 割程度値下げしたい(年会費 1 万円は高い)。

## VI. その他

平成 29 年第 1 回理事会について:

開催日時=2017 年 2 月 2 日 (木) 11 時 30 分~17 時 00 分

会 場: 大阪大学微生物病研究所 第一会議室 (予定)

平成 29 年第 2 回理事会について:

開催日時=2017 年 3 月 18 日 (土) 11 時 30 分~16 時 00 分

会 場: 東北大学片平キャンパス片平さくらホール 会議室 C・D

第 90 回総会について

会期: 2017 年 3 月 19 日 (日) ~21 日 (火)

会場: 仙台国際センター 展示棟

## VII. 閉会